

国際交流委員会

中期目標、中期計画に従って、教育のグローバル化、国際交流を進め、ほぼ計画通りの成果をあげることができた。平成 29 年度の年度計画の実施状況は以下のとおりである。

1. 国際交流

(1) 協定校の拡大

新規の協定校の拡大に向けては、これまで協定校が少なかったヨーロッパの大学との協定を進め、フランスのレンヌ大学との交流協定が締結された。またイギリスのニューキャッスル大との交流協定が順調に進んでおり、30 年度中に締結される予定である。

また協定校以外で、ハンガリーのカーロリ大学との学術交流を 2017 年 9 月に教員 2 名、学生 5 名をハンガリーに派遣しカーロリ大学生との交流、視察およびブタペストのジェットロにおけるインターンシップを行った。

アジアとの交流拡大に関して、ベトナムのハノイ大学との学部間交流協定締結に向けて交渉の準備を始めている。また留学希望者の多い台湾における協定校開拓のため、3 月に台北市にある国立台湾師範大学や国立台湾教育大学を訪問し、学習環境の視察とともに学部間協定締結のための協議を開始した。いずれも協定締結に向けては積極的であり、国立台湾師範大学文学院とは、来年度中の締結を予定している。

香港理工大学との協定については、ほぼ締結するところまで交渉が行われていたが、先方の大学の方針の変更に伴い、締結は見送られることになった。

(2) 語学研修

短期語学研修については、従来通りカナダ・マギル大学（2018 年 2-3 月・4 週間）およびベトナム・フエ大学（2018 年 3 月・2 週間）において実施した。マギル大学の語学研修については、今年度から教員による引率を取り止めたが、マギル大の受け入れ体制が万全であり滞りなく語学研修から帰国した。フエ大学への語学研修は来年度から教員による引率を行わない予定である。中国への語学研修は学生が集まらなかったため実施されなかった。

(3) AIMS プログラム

全学で進められている AIMS プログラムについては、教務委員会が直接の窓口となっているが、AIMS に派遣する学生も、応募の中から厳正な審査で学部生 1 人を選定しタイへ派遣することができた。

(4) 日越大学

日越大学については、ICAS機関長の伊藤哲司教員および蓮井誠一郎教員などが中心となって、交流に向けての準備が整備されている。現在のところ国際交流委員会に対する協力要請はないが、実質的に交流が開始すれば積極的に関与していく体制を整えている。

海外協定校との連携教育や学生の受入および協定校への派遣学生の拡大、学生への支援体制に関して、昨年に引き続き積極的に対応している。ダブルディグリーなどの連携教育については、韓国の仁済大学との協議が進められていたが 29 年度の実現は見送られた。

2. 留学生のための環境整備

増加する留学生の学習・研究環境を整備するため、留学生室の整備およびチューターとの交流を図った。

留学生室（C301）の整備を、学内での競争的資金による留学生経費を国際交流委員会で獲得し実施した。老朽化していた PC やプリンターを更新し、本棚を設置した。さらに勉学に必要なと思われる事典類、論文執筆の補助となる書籍などを購入し、留学生が利用しやすい環境となるよう整備した。また留学生・チューター・教員との対面式を 2 回実施し、留学生の受入れ体制を充実させた。

3. 英語による講義の開講

英語による授業は、常勤・非常勤の教員を含め 4～5 本開講されているが、とくに英語による経済学の講義は、協定校からの開講の要望が強い。そのため新規採用の教員の条件として「英語で講義できる」を加えている。これによって今後、英語による授業を常時提供できるよう体制を整えてきたい。

4. 今後の展望

留学生の拡大には、海外協定校の開拓・拡大が必要である。29 年度については先述の通り 2 校との学部間交流の締結がなされたが、本年度もベトナムおよび台湾との交流協定を進め締結したいと考えている。さらに協定校について英語圏およびアジア圏において候補となる大学についても国際交流課と連携しながら、調査を進める予定である。また同時に、交流が実質的に実施されていない大学との交流協定に関してはこれらを見直し、協定の終結の手続きを進めて行く。

平成 29 年度国際交流委員会委員長：葉倩璋